

巡回企画展のご案内 | 大阪会場のみ開催

# 組紐 —ジグザグのマジック—

*Kumihimo*

*The Zigzag Magic of Japanese Braided Cord*

会期: 2020年3月6日(金)~5月19日(火)

会場: LIXILギャラリー (大阪会場)

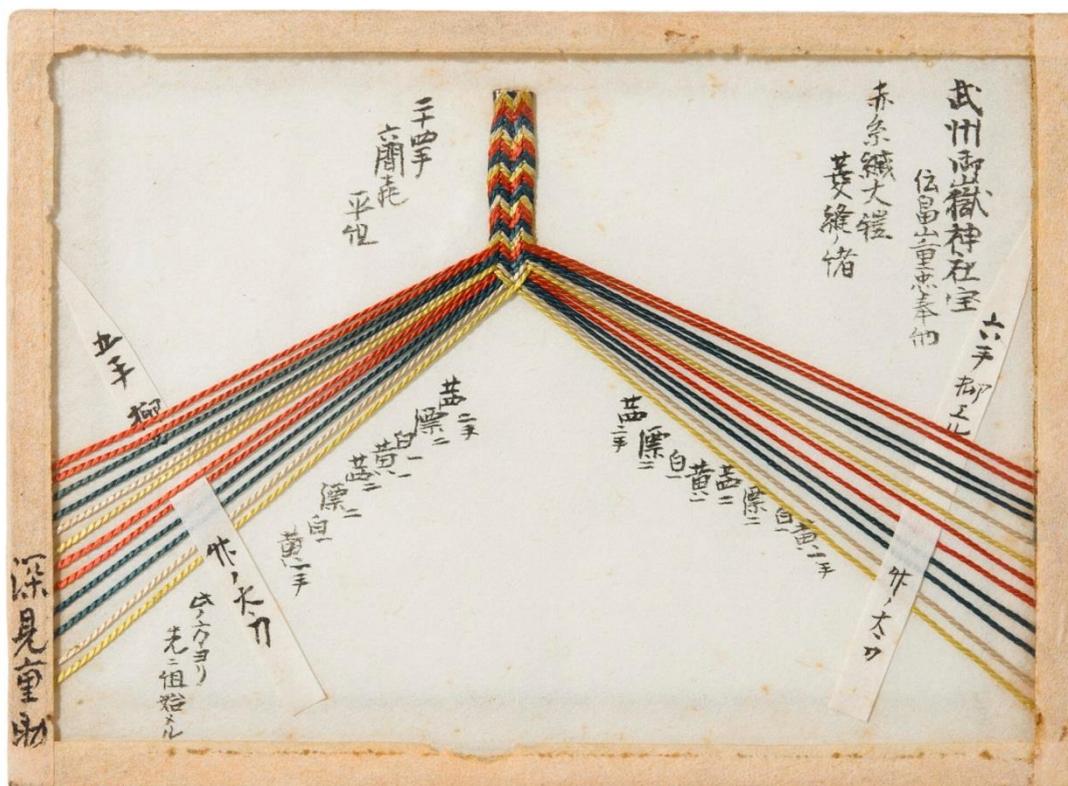


写真 1: 武蔵御嶽神社 赤糸織大鏡 組紐の試作。

制作: 有職糸組師 13代・深見重助

所蔵: 安達くみひも館

撮影: 佐治康生

「建築とデザインとその周辺」をめぐり、独自の視点でテーマを発掘するLIXILギャラリー（大阪会場）の企画展では、2020年3月6日（金）～5月19日（火）の期間、「組紐—ジグザグのマジック—」を開催します。

3本以上の糸束を斜めに交差させ組み上げてつくる「組紐」。組むことで優れた伸縮性と安定した強度が生まれ、加えて複雑で色彩豊かな模様もつくることができます。日本では古くから宗教、儀礼などの大切な場面で用いられ、時代が下るとともに活用範囲は広がり、それに合わせて技術やデザインも開発されてきました。本展では、組紐の古今の伝統美と驚きの技を約140点の実資料で紹介し、秘めたる優れた特性と多様性をひも解きます。

## 開催概要



\*南館2階タワーAオフィス入口より、9階でエレベーター乗り換え、12階へ

## 「組紐 — ジグザグのマジック」

*Kumihimo The Zigzag Magic of Japanese Braided Cord*

会 期	2020年3月6日（金）～5月19日（火）
開館時間	10：00～17：00
休 館 日	水曜日（祝日は開館）
会 場	LIXILギャラリー（大阪会場） 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 12階
入 場 料	無料
企 画	LIXILギャラリー企画委員会
制 作	株式会社LIXIL
監 修	多田牧子（組紐・組物学会理事）
協 力	安達くみひも館、飯山隆司、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、 （株）澤村義肢製作所、寺本靖、東京農工大学科学博物館、結城和子
展示デザイン	+建築設計 田代朋彦
会場グラフィック	Kobito inc.

## 展示会の見どころ

組紐とは、3本以上の糸束を交互に交差させ組み上げてつくる紐のことを言い、すでに縄文時代にはあったことが確認されています。その特長は優れた伸縮性や安定した強度に加え、組み方により様々な断面形状や色柄も複雑で美しい模様を考案できることです。それゆえ儀礼用具の緒や飾り、甲冑のこざね小札を綴じ束ねるおとし威など、古くから社寺仏閣、武具、装束などと深く関わり発展してきました。その伝統を引き継ぐ帯締めを含め、現代では組紐の特性を活かした暮らしの日用品や工業製品まで活用範囲は広がりをみせています。身近にありながらあらためて組紐の世界に触れてみると、その高い機能と意匠性に驚かされることでしょう。本展では、日本における長い組紐の歴史のうち、ひとつの発展期となった室町から江戸、次に一般に普及した明治以降、そして応用の時代となった近年から、それぞれ特長ある事例を実資料約140点でご紹介します。例えば、武家社会における鎧の一部や刀のこしらえなど武具類の組紐、庶民が身に着けるようになった着物文化の中の帯締めや羽織紐の数々。また現代では組紐を補強材とする樹脂との複合材料を用いた義足のソケットなど、組紐の世界を幅広くご覧いただけます。その他、本来は見るできない伊勢神宮の唐組平緒を手がけた匠の仕事や世界の組紐の一例として日本同様に高度に発達したアンデスの組紐も紹介します。本展を通して、複雑で奥深い組紐の魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



## ●主な展示と見どころ

### <組紐の発展>

日本の組紐技術が大きく発展したのは、平安・鎌倉時代から江戸にかけ武具の要として用いられてきたのも一因です。中でも甲冑の小札を綴じ束ねる組紐（威）の役割は大きく、鎧に色と自在性を与える役割がありました。また日本刀の柄巻や鞘に取り付ける下緒にも組紐が用いられており、装備を際立たせる装飾性が伺えます。ここでは、室町期の貴重な草摺（写真2）の実物や鎧威毛図（写本）、また非常に珍しい江戸時代の柄巻見本（写真3）など約40点を展示します。

### <組紐の普及>

明治時代に入ると、廃刀令が出たため、これまで武具の組紐を手がけていた職人たちは、着物の帯締めや羽織紐に活路を見出し、これらが一般に普及していきました。着物文化の華やぎに合わせ、色合いや柄に独自の工夫が施され多種多様なものが生まれます。ここでは、東京組紐卸協同組合で理事を務めた土山弥太郎氏（1918-2003）が収集した、明治から昭和初期の組紐関連資料1300点以上から一部を紹介します。帯締めや羽織紐などが台紙に彩り美しく整然と並べ貼られ、見事な組紐標本と言えます。その台紙状のものを21点展示します。（写真4）。様々な手業が生み出す豊かな意匠の世界をご堪能ください。

### <組紐の匠>

組紐職人で唯一の人間国宝、深見重助氏（1885-1974）は、代々有職糸組師として宮中で扱うあらゆる組紐制作を担う家の13代目です。高度な技が必要とされる、式年遷宮（伊勢神宮）の唐組平緒も制作していました。深見氏は晩年、平安期の巻緒や神社の宝物の組紐の残欠から当時の組み方を解読し再現した試作品も数多く残しました。ここでは昭和48年に伊勢神宮のために調製した平緒の見本（写真5）や平家納経の巻緒の残欠と復元、明治期の組み方控え帳などを披露します。匠による繊細で格調高い仕事を鑑賞できる滅多にない機会です。

### <組紐の応用>

現在、組紐はまっすぐだったものから円形螺旋や角型螺旋、ジグザグなど様々な形態が生まれ美と技の革新が進んでいます。一方、工芸以外の新たな分野でも組紐技術が活用されています。1965年にアメリカ人初の宇宙飛行士が船外活動で装着した命綱も組紐でした。また、義足用のカーボンストッキネットと呼ばれる炭素繊維の筒状の組紐（写真6）を樹脂で固めたソケットは、薄くて軽く耐久性に優れているためパラリンピック選手の義足などにも活用されています。

### <海外の事例から アンデスの組紐>

かつての南米アンデス地域においても、日本と同様に高度に発達した組紐文化が見られます。ここでは、アンデスのナスカ文化（紀元前後-800年）頃の頭帯やベルトとして使われた組紐（写真7）や武器として用いる投石紐が登場します。日本とは異なる組紐の用途やデザインにご注目ください。

## リリース用画像

本リリースに掲載された画像(写真1~7)の送付をご希望の際は、メールにて担当者までお問い合わせ下さい。また、ウェブサイトにはその他の画像も掲載しておりますのでご確認ください、お問い合わせ下さい。  
<https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g-2003/>

【写真キャプション・クレジット】 撮影：すべて佐治康生

写真2：白糸威棲取鎧（室町時代初期／伝京都鞍馬寺旧蔵）。後世に脇楯に仕立てられているが、本来は大鎧の射向（左側）の草摺。草摺部分の威（組紐）は当時のままの貴重なもの。所蔵：寺本靖

写真3：江戸時代の柄巻見本。組紐を柄に巻くことで補強と滑り止めの役割を果たすと同時に美しさも表現している。所蔵：飯山隆司

写真4：土山弥太郎氏が収集したコレクションより、大正から昭和初期の羽織紐一覧。所蔵：東京農工大学科学博物館

写真5：第六十回（昭和48年）神宮御式年遷宮御用唐組御平緒見本。平緒は、太刀を腰に吊るす幅10cmほどの帯状の組紐で、儀式の際に位の高い人が身に付ける。所蔵：安達くみひも館

写真6：義足用のカーボンストッキネット。炭素繊維の筒状の組紐を何層か重ねて樹脂で固めてソケットを作る。所蔵：（株）澤村義肢製作所

写真7：ナスカ文化（紀元前後-800年）頃の平組紐で頭帯として使われた。素材はアルパカで雷文模様が組み出されている。所蔵：多田牧子

## 関連企画のご案内

新型コロナウイルスの感染予防のため、以下のイベントを中止いたします。  
ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

〔レクチャー＆ワークショップ〕 組紐・伝統から未来へ

日時 2020年4月19日（日）14:00～15:30

講師 多田 牧子（組紐・組物学会理事）

会場 LIXIL ショールーム大阪 セミナールーム

大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館タワーA 11階

参加費 700円（税込、材料代）

定員 30名（※要予約）

予約方法 電話もしくはホームページから

内容

日本の組紐を50年、アンデスの組紐を35年、制作研究されている多田牧子さんに、組紐の歴史からアンデスの組紐についてのお話と、組紐でキーホルダーをつくるワークショップをしていただきます。組紐について学び体験できるまたとない機会です。どうぞご参加ください。

## 新刊 LIXILブックレットのご案内

LIXIL BOOKLET 『組紐—ジグザグのマジック—』

3月中旬発売予定（72ページ予定、本体価格1,800円）

## 本リリースに関するお問い合わせ先

LIXIL ギャラリー (<https://www.livingculture.lixil/gallery/>)

担当／大阪会場：高橋 麻希

TEL：06-6733-1790

E-mail：xnb@lixil.com



LIXILは、創業期のクラフトマンシップを今に語り継ぎ、常に建築家やデザイナーと手を携え、機能性と洗練された美しさの融合を追求してきました。それこそが、私たちが掲げる「LIVING CULTURE」というコンセプトです。私たちはミュージアム、ギャラリー、資料館および出版活動を柱とした文化活動を通して、ものづくりの技と心を次世代に伝え、斬新なアイデアを発信する場を提供し、LIVING CULTUREを表現していきます。LIXILは、ものづくりにこだわり、ライフスタイルや時代に合った美しく機能的な製品を作り続けることで世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献していきます。